

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372700641		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホームにこここだいとう		
所在地	岩手県一関市大東町猿沢字板倉60-1		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0372700641-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成28年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流を大切にしており、特に地元の小学校との交流は頻繁に行われている。慰問の前に担任の先生が施設に打ち合わせに来て下さり、「何かリクエストがあれば…」と、こちらの要望にも応じてもらっている。最近ではこちらのリクエストで、5年生による長縄跳びを施設内ホールにて披露してもらった。また、利用者の誕生日には必ずメッセージカードを生徒達が届けに来てくれ、入所者の皆さんも楽しみにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は猿沢地区の中心部にあり、1階はデイサービス、2階がグループホームとなっており、保育園、小・中学校との交流も定着しており、特に中学生の職場体験は、今後の教育に最も大切であり、期待するところである。看取り指針も確立されており、隣の猿沢診療所との医療連携も24時間体制でしっかりとれ、看取りも実践している。それに伴う職員の心のケアにも取り組んでいる。災害対策に関する訓練もデイサービスと合同訓練のほかにも、独自としても毎月実施している。独自の防災協力隊も既に結成しており、地域に溶け込んだグループホームとして穏やかな日常生活を過ごせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当時の理念を継続し、その理念を共有する為、毎朝唱和し意識付けを行っている。	12年前に開所した当時に管理者が作り上げた理念を継続しながら、すっかり地域に溶け込んでいる。利用者が高齢化する中で、どんな状態になっても体制づくりが出来るよう内部研修に力を入れ、ケアミーティング等で振り返りをしながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に出展したり、小学校の運動会、学習発表会に招待を受け参加している。小学校からの慰問も多く、交流を深めている。	平成27年度猿沢地区文化祭に参加(習字・手芸を出展)している。猿沢小学校の運動会に招待されたり、クリスマス前に準備の手伝いに来てくれる。隣接するデイサービスを訪問したり、デイサービスから野菜のおすそわけをしてもらったりしている。地域の行事(摺沢地区のあんどん祭りの絵を描くこと)や秋祭りにも、できるだけ参加し、「峠かぐら」は、来訪してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議においてに認知症の症状について説明したり、入所の申し込みに来られた方にも対応についてアドバイスしたり、理解してもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況や、入所者様の状態、平均介護度等を報告している。また防災協力隊からも発電機の取り扱いなどについてもアドバイスを頂いている。	議事録(5開催分)を確認した。当所独自の防災協力隊がある。火災時には3人が救助のために事業所に入るように訓練している。また、構成員である行政の指導で、去年はインフルエンザの流行で面会の制限をしたが今年度は制限することなく、衛生面、環境面に配慮しながら支援に努めた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、職員の研修についての報告や、インフルエンザ予防についての家族の面会についてどうすればよいかアドバイスを頂いた。	運営推進会議には、担当職員が構成員になっており、利用者の暮らしぶり等は把握している。介護認定の変更や更新があれば、家族に報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については道路に面している事もあり、防犯上の問題もある事からオートロックになっているが、それ以外は特に施錠はしておらず、身体拘束につながるようなケアは行なわないよう取り組んでいる。	グループホームは猿沢地区の中心部にあることもあり、防犯上オートロックにしている。新人職員教育として、管理者やベテラン職員の指導が行われているほか、マニュアルでの勉強や業務ミーティングで話し合っている。外部研修には権利擁護について2名出席し、内部伝達を実施した。特にスピーチロックについては職員同士で注意し合っている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し高齢者虐待防止について職員間で話し合ったり声掛けについても気になる事はお互いに注意しあったりしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学は随時受け付けている。契約時には読み合わせを行い納得して頂ける様務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報や推進会議議事録を送付し、日頃の様子を伝えている。またご家族や入所者様のご意見は担当者会議や面会に来られた際に伺い、運営に反映させている。	利用者家族へは、運営推進会議議事録の(写)を送付している。グループホームのにこにこ便りは、年4回発行し、家族とのコミュニケーション方法の一つとして活用されている。家族からの苦情があれば、誠心誠意対処するよう心がけている。新たに入職した職員は家族に紹介するようにしている。利用者毎に担当職員が決まっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務MTGや個人面談にて職員の意見を聴いてもらっている。業務改善についても速やかに対応してもらっている。(夜勤者の勤務時間の短縮など)	職員の意見により、夜勤を15:00～翌日10:00から16:00～翌日9:00に変更した。職員からの提案により、床と利用者の居室の壁をリフォームした。外部評価は、職員と確認しながら、管理者が作成した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望に沿って夜勤回数を決定したり勤務変更にも柔軟に対応している。また役割分担をする事でやりがいを感じてもらえるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には2名ずつ参加してもらい、業務、ケアMTGで他職員に展開させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH定例会や他GHの推進会議に出席することで情報交換している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談時は家族やご本人の要望や考えを伺っている。ケアマネからの情報提供票や主治医意見書等からの情報の把握に努め本人を理解し今までの生活を出来るだけ継続する事で安心して暮らして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から施設を見学してもらい情報交換している。入所後は本人が安心して暮らして頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネや本人、家族からの情報提供や主治医意見書等を参考に、必要な支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの人生経験や知識などを伺ったり、出来ることを行って頂くことで「自分はここで必要とされている」という事を実感していただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り家族との交流を保てるよう状況報告を行い、面会や行事への参加を促し、通院のみならず外食や外泊、外出を勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や同級生の方が時々面会に来られ、居室やホールにて談笑されている。	利用者の9名中6名が地元猿沢出身なので、親類や同級生が多くおり、時々面会に来ている。本人自身の外出も、墓参り、外食、受診、外泊など比較的多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日ごろから様子観察し、相性の良い方とそうでない方の席を配慮し、関わりを深められるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族の相談に応じたり、他事業所との連絡調整を行い支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の言動や表情からその方の真意をはかり確認している。それが困難な方は家族からも情報を得るようにしている。	センター方式の様式一部を使用しており、一人ひとりの把握した情報は、職員全員で共有している。入居時に家族から情報を得ながら、生活習慣を尊重する支援に努めている。時には、家族の要望と本人の意向に違いがあるが、本人の興味と能力に応じた取り組みを実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室に制作した手芸や家族の写真を飾ることによって安定した生活を図っている。情報提供票や関係機関からの情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿って利用者の支援を行うことで出来ること出来ないことの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスと3か月ごとの見直し、更新を本人・家族・主治医の意見などを取り入れるよう努めている。また、職員全員で話し合い、ケアプランの作成を行っている。	毎月の会議で項目ごとに検討し、家族に電話で連絡をしている。利用者によって、オムツの使用についても話し合っている。請求書送付の際に意見等を伺い、家族に送付している。主治医の意見も計画書に記している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有の徹底のため、重要事項については必ず申し送りノートで展開している。日々の様子はチャートに記入している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこだいとう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の方は施設で受診対応している。また、本人の好みに応じてほかの方と違った物を提供するなど配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校との交流、地域の店の活用、散歩などを楽しむことによって協働を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を重視しかかりつけ医を受診している。家族が地元の方は、なるべく家族に付き添っていただいている。	事業所の隣りが、一関市猿沢診療所(協力医ー内科・歯科)ということもあり、9名のうち7名がかかりつけ医としている。他の方は、東山町の医師と大東病院に通っている。2名の方は、原則的に家族対応としており、受診時を面会の機会にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師の定期訪問で利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。利用者に特変が生じた場合、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には情報提供を行い、入院後は病状を把握できるよう面会や連絡を密に取るよう努めていく。早期退院に向けて主治医や病院関係者と連携を取りながら方針を共有し施設で出来ることを行っていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に沿って事業者が対応できる最大のケアに努めている。本人や家族の希望を重視し主治医と連携を取りながら方針を共有し施設で出来る事を行っている。	看取りについては、「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」「グループホームにこにこだいとうにおける終末期生活のための契約書」を家族と、医師と、同席者(職員)で取り交わしている。入居時に説明し、渡しているほか、更に直前頃に再確認している。「グループホームにこにこだいとう」は、3名の看取りを行ったうち、2名の方が家族が付き添い、最期を迎えている。看護師は週1回来所しているが、夜間でも連絡可能である。「グループホーム看護師定期訪問記録」には、利用者毎に職員が様子等を記録し、看護師が健康相談等を記録している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて救急救命講習を職員全員が受講し、緊急時に備え復習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を消防署署員立会いのもと、年2回実施している。利用者、職員、防災協力隊員、推進委員の方々に参加してもらっている。	「消防訓練実施通知書」を一関北消防署長へ提出してから防災訓練を実施している。防災協力隊員は、7～8名参加している。年2回、「防災協力隊総会」を開催した後に訓練をしている。グループホーム単独では、毎月火災訓練をしている。職員と利用者で年間11回くらい18:00過ぎに夜間訓練をしている。備蓄は水、カップラーメン、紙おむつ、コンロ、缶詰、レトルトカレー等を1週間分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者への声掛けや普段の会話の中で行き過ぎた言動がみられた時はお互いに注意合っている。また、個人の価値を低める行為・禁句マニュアルを掲示し、職員一人一人が再確認、振り返りが出来るようにしている。	利用者に対する禁句マニュアルが、場面ごとに詳細に記されている。気付いたことは、お互いに注意合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けし焦らせないように配慮している。意思表示の困難な方は選択肢を設けて本人が決定できるよう努めている。(食事、衣類、居場所等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣や体調に配慮しながら出来るだけ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれに無関心にならないよう、行事への参加や、外出の際は化粧したりしておしゃれを楽しんで頂く。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこだいう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食材の下ごしらえをしたり食器洗い食器ふきなど、出来る事はやっています。無理のない支援を行っている。	利用者には、皮むき等、下ごしらえをやってもらっている。献立は、3日分ずつ職員が作っている。外食は年3回ぐらい行っている。クリスマスや正月、ひなまつり等の四季折々の行事食も作っている。また、ブレンダーでジャガイモを作って食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前と午後の2回、おやつ時間を設けている。随時水分摂取を行い、介護記録に1日の水分摂取量を記入し、利用者個々の水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、職員が見守りや必要時は介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの残存機能や状態を考慮しながら出来るだけトイレでの排泄を促している。トイレの訴えがない方については定時誘導を行っている。	一人でトイレに行ける方でも見守りの支援を行っており、定期誘導と座位が長くなっている方への声掛けの支援に取り組んでいる。夜でも定期的にパット交換をし清潔保持に努めている。居室にポータブルは置いていない。ラジオ体操を入浴前と食後に実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維質を多く含む食品を取り入れるなど便秘予防に努めている。なるべく自然排泄を心掛けているが必要な時は主治医やナースの指示のもと、下剤を服用して頂いたり、ナースに浣腸を頼むこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望を考慮し入浴を行っている。拒否があれば無理強いせず、ほかの方と交換したり時間をずらして声掛けしたりして対応している。	入浴は、週3回、午後実施している。比較的、利用者の方々は、入浴は好んで入られており、入浴中の情報も得られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を検討し気持ちよく休んで頂けるよう支援している。また、必要時眠剤を服用していただく方もいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこだいう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤飲や飲み忘れがないように、服薬時には必ず声に出して名前の確認を取っている。錠剤が困難な方は主治医と相談し、飲みやすく粉砕してもらい対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や読書、テレビの視聴、洗濯物たたみ等一人一人の力を活かした役割を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候、状況に応じ散歩やドライブ等支援している。また、墓参りや遠方の家族から協力を得て外泊や外出の支援をしている。	外出の状況を写真にて確認した。日常的に近くの出産に外出している方は、2名程おり、ケアプランにも盛り込んである方もいる。また、藤沢町へ行き、食事をしたりしている。秋田県男鹿半島へバス2台で、30人以上で遠出したこともある。運動を毎日のケアプランに記入している人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方の財布を事務所で職員が管理しているが、自分で現金を持たれている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や必要に応じ電話のやり取りをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターホールには金魚が泳ぎ、居間には鉢植えを飾り、どちらのお世話も利用者様のお仕事である。トイレや廊下はこまめに掃除し気持ちよく使って頂けるよう努めている。温湿度計をチェックしながら居室や居間の温湿度を管理している。	共有スペースにある椅子等の移動で床にキズが多数見られたので、リフォームを行った。朝は、利用者の方々が集まる前に窓を開放し、空気の入れ替えをし、畳の小上がりには、みずきが飾られ、ソファも随所に置かれ居場所がそれぞれ確保されており、居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には数か所にソファを、廊下にも椅子を設置し、好みの場所で過ごしていただけるように工夫している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこだいう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるよう出来る限り本人の好みにお任せしている。また、家族の写真や手芸作品なども飾っている。	グループホーム備え付けのものは、ベッド、エアコン、ロッカー(兼整理たんす)、暖房パネルとなっている。利用者には、自由に持ち込みしており、位牌、花、家族の写真、お茶セットなどそれぞれ個性豊かに配置しながらの生活が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況や状態に合わせて環境整備に努めている。混乱や失敗が生じた時は職員間で話し合い、迷いや不安を取り除いて安全かつ安心して自立した生活が営めるよう工夫している。		